

佐久市駒の里過疎対策プロジェクト支援金事業 自己評価報告書

		評価日	H29年 10月10日
団体名	特定非営利活動法人望月まちづくり研究会		
事業名	空き店舗の活用研究		
対象経費	125,559円	支援金額	62,000円

事業の目的・内容	<p>目的</p> <p>7年間空き店舗であった呉服店は、望月宿の中心地にあり、その風景に溶け込み保存したい存在である。地域の活力をアップする施策としその空き店舗を拠点施設とし活用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たなコミュニティーの構築 地域の居場所としての活用</li> <li>・観光面にも考慮し、各パンフレット設置、わら馬販売、特産品販売の試行</li> <li>・地域の絆、交流人口増等、総合的にサポートできる仕組みの研究し、検証していく。</li> <li>・今後持続して運営できる体制づくりに取り組む。</li> </ul>
	<p>内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・店内を整備しイベントのできる場を確保4/30</li> <li>・地域の居場所として活用検証5/3. 5/27. 7/9</li> <li>・研修会の実施 6/15</li> <li>・お休み処、観光拠点の検証8/11. 12. 15. 16</li> <li>・交流会の実施 7/9 七夕行事・浴衣の着付け</li> <li>・アンケート調査実施</li> <li>・週末お休み処開所 研究</li> </ul>

事業の活動実績	4/30 店内清掃 廃棄処理
	5/03 一般公開 30年前の望月宿VTR鑑賞会、昔遊び体験会、ハンドベル合奏体験
	5/27 望月城跡ハイク 歴史散策 集合場所基地として、又、雨天対策兼用
	6/15 県地域づくりネットワーク東信地区総会会場使用、地域の居場所事例講習会
	7/09 七夕イベント 親子の七夕づくり会場、浴衣で街歩き、写真撮影会、交流会
	8/11 お盆期間の帰省客、観光客のお休み処として(ポスター展同時開催)
	8/12 お盆期間の帰省客、観光客のお休み処として(ポスター展同時開催)
	8/15 榊祭りお休み処として11時～23時会場(ポスター展同時開催)
	8/16 お盆期間の帰省客、観光客のお休み処として(ポスター展同時開催)
	9/23 土曜日居場所オープン 野草のフラワーアレンジメント体験講座
9/24 日曜日居場所オープン	
9/25 月曜日居場所オープン	
10/5 街歩きの基地としての場、講座や交流会の場として活用(月を楽しむ)	



資料添付 別紙写真 チラシ・ポスター

事業の成果・効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・店舗清掃に、会員以外の賛同者が集結、新たなつながりがうまれた。</li> <li>・計画以上の展開は、七夕イベントや浴衣の着付け、浴衣で街歩きといった展開に発展。</li> <li>・多世代の交流の可能性や、若い世代とのつながりが、今後に活かせる。</li> <li>・他団体との交流につながった。公民館、総合型、観光協会、</li> <li>・展示会、発表会、個展への足掛かりができた。</li> <li>・榊祭り歴代のポスター展を開催、想定以上の反響があった。</li> <li>・準備中でも旅行者が立ち寄り交流できた。</li> </ul>
----------	---

自己評価	事業は申請どおり実施できた	<p>① できた 2 概ねできた 3 あまりできなかった 4 ほとんどできなかった</p> <p>主な理由 (3、4と答えた場合のみ)</p>
	事業の実施によって、期待した効果をあげることができた	<p>① できた 2 概ねできた 3 あまりできなかった 4 ほとんどできなかった</p> <p>主な理由 (3、4と答えた場合のみ)</p>
	実施計画書と実績報告書の活動費の内訳について	<p>① ほとんど同じ 2 多少の変更があった 3 大幅に変更している</p> <p>主な理由 (2、3と答えた場合のみ)</p>
	その他、評価すべき点等	<p>地域の拠点としての居場所づくりは想定していた以上の事業が加わり、いろいろの展開を即し、展示会、発表会、観光面等、すべての可能性を実証体験できた。申請事業のソフト面では、今後もつづいて展開して毎週土日月曜日に開店して、研究を継続していく事になった。</p>

※ 自己評価の欄は、番号に○を付けてください。評価は、客観的自己診断です。

今後の事業展開	<p>今後水回りの整備することになり、より使い勝手の良い場ができつつあり、9月以降毎週土日月曜日を交流の場として開放することになった。今後の運営方法の検証をして、持続可能な施策を研究していく。新たな展開の居場所づくりは、多世代交流の場となり地域の活性化をサポートしていく体制作りを目指すことになる。</p> <p>「今後の事業展開として運営費の捻出研究」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元特産品販売・住民の手作り品展示販売・イベント開催 (参加費・出店料・レンタル料)</li> <li>・地域の居場所として、当番制住民参加のシステム研究</li> </ul>
---------	--